2025年度　福祉保育学科

# 授　業　概　要

学校法人　昌賢学園

群馬社会福祉専門学校

福祉保育学科2年 開講科目

| 区分 | | 科　目 | 単位 | 種類 |
|---|---|---|---|---|
| 基礎科目 | 外国語以外 | 日本国憲法 | 2 | 講義 |
| | | 情報リテラシー | 2 | 演習 |
| | 外国語 | 英語リテラシー | 2 | 演習 |
| | 体育 | 健康教育 | 1 | 講義 |
| 保育の本質・目的に関する科目 | | 社会福祉 | 2 | 講義 |
| | | 子ども家庭支援論 | 2 | 講義 |
| | | 児童福祉特殊* | 2 | 講義 |
| 保育の対象の理解に関する科目 | | 子どもの理解と援助 | 1 | 演習 |
| | | 子どもの食と栄養 | 2 | 演習 |
| | | 障害者福祉論Ⅱ | 2 | 講義 |
| 保育の内容・方法の理解に関する科目 | | 保育の計画と評価 | 2 | 講義 |
| | | 音楽Ⅱ | 2 | 演習 |
| | | 図画工作Ⅱ* | 1 | 演習 |
| | | リトミック* | 1 | 演習 |
| | | 幼児体育 | 1 | 演習 |
| | | 乳児保育Ⅱ | 1 | 演習 |
| | | 子どもの健康と安全 | 1 | 演習 |
| | | 社会的養護Ⅱ | 1 | 演習 |
| | | 子育て支援 | 1 | 演習 |
| | | 児童文化* | 1 | 演習 |
| | | 保育技術Ⅱ | 2 | 演習 |
| 保育実習 | | 保育実習Ⅱ | 2 | 実習 |
| | | 保育実習Ⅲ | 2 | 実習 |
| | | 保育実習指導Ⅱ | 2 | 演習 |
| | | 保育実習指導Ⅲ | 2 | 演習 |
| 総合演習 | | 保育実践演習 | 2 | 演習 |
| その他 | | 障害者スポーツ | 1 | 演習 |
| | | 障害者支援 | 1 | 演習 |

# 授 業 概 要

| 授業のタイトル（教科名） | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| 日本国憲法 | 講義 | 森田　隆夫 |

| 授業の回数 | 時間数(単位数) | 配当学科・学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| 15 | 30（2） | 福祉保育学科2年・前期 | 必修 |

実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）

[授業の目的・ねらい]

日本国憲法は、日本の最高法規である。それは、この憲法が人権の体系であるからである。基本的人権は、すべての法領域に妥当する普遍的原理であり、社会福祉法、児童福祉法、介護保険法といった社会福祉に関する法律も、これを基礎としている。この憲法に触れ、人権の意味を知り、一般人としてはもとより、社会福祉の専門家としての基礎を作る。

[授業全体の内容の概要]

先ずは、基本的な条文に当たりその理解をしてもらう。次に、判例をできる限り示し、憲法につき具体的に考える機会を持つ。適宜、関連する法律の紹介も行う。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

①六法で条文を調べることができる。
②憲法につき重要な概念、制度等を説明することができる。
③憲法解釈という思考方法をとることができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1. 科目オリエンテーション、 人権①（人権の概念、歴史について説明する。）〔講義〕
2. 人権②（基本原理、私人間効力について説明する。）〔講義〕
3. 人権③（包括的基本権、法の下の平等について説明する。）〔講義〕
4. 人権④（思想良心の自由、信教の自由等について説明する。）〔講義〕
5. 人権⑤（表現の自由等について説明する。）〔講義〕
6. 人権⑥（経済的自由について説明する。）〔講義〕
7. 人権⑦（人身の自由について説明する。）〔講義〕
8. 人権⑧（生存権、教育を受ける権利について説明する。）〔講義〕
9. 人権⑨（労働権、参政権、国務請求権、国民の義務について説明する。）〔講義〕
10. 統治①（統治機構について説明する。）〔講義〕
11. 統治②（国会について説明する。）〔講義〕
12. 統治③（内閣について説明する。）〔講義〕
13. 統治④（裁判所について説明する。）〔講義〕
14. 統治⑤（財政、地方自治について説明する。）〔講義〕
15. まとめと解説〔講義〕

[履修に当たっての留意点]

教科書で予習・復習すること、憲法の条文に目を通しておくことが絶対に必要です。

[使用テキスト・参考文献]

【テキスト】
・内山絵美子他(2023年)『保育士・教員のための憲法』八千代出版
【参考文献】
・小六法（例:『（保育）福祉小六法』みらい、『ポケット六法』有斐閣）

[単位認定の方法及び基準]

小テスト（40%）、定期試験（60%）を総合して評価する。

# 授 業 概 要

| 授業のタイトル(教科名) | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| 情報リテラシー | 演　　習 | 市 川 貞 男 |

| 授業の回数 | 時間数(単位数) | 配当学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| ３０ 回 | ６０（２） | 福祉保育学科2年・通年 | 必　修 |

実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要と授業との関連性)

教員としての実務経験、教育委員会指導主事や研修会講師としての教育・保育現場への実務指導経験、教育現場での情報利活用を通して、現場の実情に即した実践的な知識やスキルの定着が図れるように各回の授業を展開する。

[授業の目的・ねらい]

パソコンに慣れ親しみ、身近な道具として利用する方法を身に付け、保育や福祉の現場に活かす能力を養う。

[授業全体の内容の概要]

コンピュータによる文書作成、表計算、プレゼン資料等の作成のための基本的な操作を、演習課題を通じて学び、Officeソフトの機能を体系的に理解する。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

1. マウスやキーボード操作に慣れ、基本的なOSやアプリケーションについて理解を深めることができる。
2. ワープロソフトのWordを使って、おたよりなどの文書を作ることができる。
3. 表計算ソフトのExcelを使って、表やグラフの作成とデータベース管理ができるようになる。
4. プレゼンテーションソフトのPowerPointを使って、分かりやすく説得力あるスライドを作ることができる。
5. ビジネスメールのスタイルや注意点を理解し、目的に応じたメール文を作ることができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

この授業は、概略説明→操作練習→課題演習で構成される。

コマ数

1. ガイダンス　授業概要の説明と、PCやICTによる教育の情報化や情報モラルについて概説する。
2. パソコンの基礎　Windowsシステムを概説し、基本的な操作を練習する。
3. 基本操作の習得　メモ帳を使ってキーボードでの入力操作を練習する。【Unit1】
4. Windows　ファイルやフォルダーの仕組みについて説明し、操作と検索の練習をする。【Unit2】
5. 文字入力　キーボードを使って文字入力の練習をする。【Unit3】
6. マウス操作　マウスを使ってイラストの描画練習をする。【Unit3】
7. Word①　文書作成の構成要素や機能を概説する。【Unit4】
8. Word②　簡単なおたよりを作成する。【Unit4】
9. Word③　Officeソフトの共通ツールを使って、表の作成や編集をする。【Unit5】
10. Word④　Officeソフトの共通ツールを使って、画像の挿入と加工や編集をする。【Unit5】

11. Word⑤ イラストの入った案内カードを作る。【Unit6】
12. Word⑥ 表が入ったおたよりを作成する。【Unit6】
13. Word⑦ やや複雑なレイアウトのおたよりを作成する。【Unit6】
14. Excel① 表計算ソフトの機能や構成要素について概説する。
15. Excel② データ入力や編集操作をする。
16. Excel③ 計算式の入力、表の集計、シートの保存などの操作練習をする。
17. Excel④ 表を作成する。【Unit7】
18. Excel⑤ 計算式を使ってフォームを作成する。【Unit7】
19. Excel⑥ データベースを作成する。【Unit8】
20. Excel⑦ データベースの更新をする。【Unit8】
21. Excel⑧ データの検索と集計をする。【Unit8】
22. Excel⑨ 表データの様式を作成する。【Unit9】
23. Excel⑩ 表データの集計をする。【Unit9】
24. Excel⑪ 表データをグラフで表示する。【Unit9】
25. Excel⑫ 関数を使って管理簿を作成する。【Unit9】
26. PowerPoint① プレゼンテーションの流れ、PowerPointの機能や構成要素について概説する。
27. PowerPoint② スライドの作成や編集などの操作をする。
28. PowerPoint③ プレゼンファイルを作成する。【Unit10】
29. 保育の場でのEメールによるコミュニケーションについて考察して、メール文を作成する。【Unit11】
30. 総合演習課題の実施やまとめ。

〔履修に当たっての留意点〕

1. 教科書の該当箇所を読んで、予習しておく。
2. 授業中には、集中して演習課題に取り組み、スキルを向上させる。
3. 授業内に未達成の演習課題や、欠席時の演習課題はそのままにしないで、次回までにやり遂げて指定の「提出フォルダ」にファイルで提出しておく。

| [使用テキスト・参考文献] | [単位認定の方法及び基準] |
| --- | --- |
| 阿部正平・阿部和子・二宮祐子 (2018年)<br>『保育者のためのパソコン講座』Windows10<br>萌文書林 | (試験やレポートの評価基準など)<br>各回授業(授業の参加状況・演習時課題等)50%と総合演習課題50%で成績評価を行う。 |

# 授業概要

| 授業のタイトル（教科名） | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| 英語リテラシー | 演習 | グジェビック　マレク |

| 授業の回数 | 時間数（単位数） | 配当学科・学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| ３０ | ６０（2） | 福祉保育学科　２年 | 必修 |

実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）
幼稚園での実務経験はありませんが、大人だけでなく子供も対象として今まで英語を教えてきました。
現在でも教えている生徒の中に日本人の小学校の児童や幼稚園の園児がいます。

〔授業の目的・ねらい〕
外国人と日常の様々な状況で、意思を通わせる能力が必要となってきています。仕事、趣味、家族、友達に関して自分が質問をしたり、質問に答えること、さらに外国人に指示を与えたりその理由を説明したりしなくてはいけない状況が生じます。保育士は、そのことを生徒に教える責任があります。

〔授業全体の内容の概要〕
基本的な文法、たくさんの会話の練習、発音やイントネーションの練習、さらに英語を母国語とする国の中でいくつかの国の生活や文化についての情報も学びます。

〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕
学生は基本的な日常生活の範囲内で英語の意思の疎通ができるようになり、さらにその英語での意思疎通の能力を他の人にも教えることができるようになります。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕
１．Introductions（序論）　（自己紹介、会話の練習、ロールプレイング、質問の練習）
２．Greetings（あいさつ）　（会話の練習、発音の練習）
３．Meeting People（人々との会合）　（話し合うこと、会話の練習、書く練習）
４．Showing Hospitality（もてなし）　（申し出をすること、会話の練習）
5. Let’s Do It!（それをしよう!）　（提案や招待をする、会話の練習）
６．Interests and Hobbies（関心事と趣味）　（会話の練習、書く練習）
７．Going Shopping（買い物をすること）　（話し合いや会話の練習、買い物のリストを作る）
８．A Visit to the Zoo（動物園へ行ってみる）　（現在進行形、ロールプレイング、書く練習）
９．Funny, Funnier, the Funniest（の比較級と最上級）　（形容詞の変化、話し合ったり会話をする練習）
１０．Telling the Time（時間を言う）　（尋ねる練習、書く練習、会話の練習）
１１．Time for Lunch　（料理と食事について、会話の練習、自分の食べるものを決める）
１２．You Can Do It　（能力について、自分や他の人について話すこと、会話）
１３．How About a Swim With a Dolphin?（イルカと一緒に泳ぐのはどうですか？）　（可能性について話す、ロールプレイング、会話）
１４．Jobs and Professions（仕事と職業）　（繰り返しする活動、ロールプレイング、会話の練習）
１５．More Interesting Than You Think（あなたが思うよりもっと面白い）　（形容詞の変化、話し合い、書く練習）
１６．My New Kitchen（私の新しいキッチン）　（場所や家具の描写、モノローグ）
１７．The Weather（天候）　（天候の様子の描写、絵を描く、会話）
18. Moving Around the Town（町の中を散歩する）　（行き方を聞いたり教えたりする）
１９．What Country Is Japan　（金の小島へ旅行する）　（田舎の場所、話し合い）
２０．Going Abroad（外国へ行く）　（見物、欲しいものを表現する、会話）

２１．Countries and Nationalities（国と国籍）　（話したり書いたりする練習、絵をかいてみる）
２２．A Trip to Egypt（エジプトへの旅）　（観光名所、会話の練習）
２３．Just a Week Ago（ちょうど一週間前）　（過去の経験、会話の練習、書く練習）
２４．Traveling to the Treasure Island（ゲーム；　過去形）
２５．An Accident（事故）　（過去の不規則動詞、書く練習と読む練習）
２６．Natural Disasters（自然災害）　（特別な助動詞、話し合い、ロールプレイング）
２７．When a Big One Strikes　（特別な助動詞、会話、書く練習）
２８．Have You Ever Tried One?（今までにやったことがありますか？）（現在完了形、ロールプレイング）
２９．How Long? Since When?（どのくらい長く？　いつからずっと？）　（現在完了進行形、会話の練習）
３０．General Review of Verbs and Auxiliary Verbs Usage（動詞と助動詞の使い方の全体的な復習）　（会話の練習）

〔履修に当たっての留意点〕　授業に出席し参加すること。授業の準備をすること。指示のあったように発音の練習をすること。

| 〔使用テキスト・参考文献〕 | 〔単位認定の方法及び基準〕 |
| --- | --- |
| *How Are You Doing? - A Short Course of English for Children and Adults*; Marek Grzebyk, 2025（子供と大人のための英語の短いレッスン）<br>テキストは自分で準備します。 | 試験（７０％）と授業への参加（３０％） |

# 授 業 概 要

| 授業のタイトル（教科名） | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| 健康教育 | 講義 | 星野　邦彦 |

| 授業の回数 | 時間数(単位数) | 配当学科・学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| 8 | 15（1） | 福祉保育学科　2年　前期 | 必修 |

実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）

高等学校、中学校での保健授業指導の実務経験をもとに、日々の生活の中で、生活習慣病を防ぐためにはどのような生活習慣を身につけるべきかを、具体的な例を挙げながら授業を展開していく。

[授業の目的・ねらい]

・生涯を通じて健康で豊かな生活を送るため、日常生活の健康施策を理解する。

・身体運動をとおして、健康増進や発病予防の一次予防に関わることを理解する。

[授業全体の内容の概要]

人間にとって健康を考えることの意味、疾病やその対処法、心の健康と保持、社会と健康との関わり具体的な体力の把握と体力増進の方法、運動の持つ文化性、食と健康との関わりについて学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・健康の概念・定義について理解するとともに、歴史的・社会的背景と流れを把握する。

・生涯にわたる健康の保持増進のあり方について理解する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1. ライフスタイルと健康：健康を増進するためのライフスタイルを医療費や環境など社会的側面を含め総合的な視点で説明する。【講義】
2. 生活習慣病について：生活習慣病や三大死因などの原因や特徴、基礎的知識の獲得、それらと運動との関連について説明する。【講義】
3. 肥満について：肥満の原因となる体脂肪の役割や肥満の測定方法などを学び、改善策として代謝や運動食事との関連について説明する。【講義】
4. 骨と運動：骨の役割と構造を理解し、骨の強化や骨の発達に応じた運動について説明する。
5. 加齢について：サルコペニアが引き起こす身体問題や運動の重要性について説明する。【講義】
6. 子どもの体力と運動：現在の子どもを取り巻くスポーツ・運動の環境について説明する。【講義】
7. いろいろな環境下で安全に運動を行う：いろいろな環境下で安全に運動を行う際の留意点を理解し、パフォーマンスとの関連を説明する。【講義】
8. ストレスと運動：運動がストレスをはじめ、心や脳に与える影響、効果や働きがけについて説明する。【講義】

[履修に当たっての留意点]

各回の授業において学習の手引きを活用し、単元の理解を深める。

各自の生活習慣を把握し、授業に取り組む。

| [使用テキスト・参考文献] | [単位認定の方法及び基準] |
|---|---|
| 安部孝・琉子友男　著（2020年）<br>『これからの健康とスポーツの科学　第5版』<br>講談社 | 定期試験70％出席状況30％により総合評価をおこなう。 |

# 授 業 概 要

| 授業のタイトル(教科名) | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| 社会福祉 | 講義 | 伊藤 弘子 |

| 授業の回数 | 時間数(単位数) | 配当学科・学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| 15回 | 30(2) | 2年前期 | 必修 |

実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性)

精神保健福祉士として、医療・福祉の現場でソーシャルワーカーとして勤務してきた経験を活かし、社会福祉の基礎を実際の事例を示しながら講義していく。

[授業の目的・ねらい]

1．社会福祉の基本的理念・原則を学ぶ。
2．社会福祉の歴史的展開を踏まえて、現在の仕組みを理解する。
3．社会福祉援助活動の方法を概観し社会福祉に関わる専門職としての保育士の位置づけを理解する

[授業全体の内容の概要]

社会福祉の歴史、理念、法体制、実態を学習し、時代の流れの中でどのような発展をしてきたかについて学ぶ。また、被援助者とそのニーズ、福祉行政の変遷、社会福祉の援助方法、専門職の課題、利用者保護等について学習する中で、保育分野との関連についても理解を深める。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

1. 社会福祉の意義、法体系、実施体系の概要が理解できるようになる。
2. 多職種間での連携と相互支援の重要性について理解できるようになる。
3. 地域で起こる様々な生活課題に対する相談援助技術や苦情解決の仕組みが把握できるようになる。
4. 児童の人権や家庭支援について，社会福祉及び児童福祉の視点から理解できるようになる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1. 社会福祉への理解:福祉的課題を身近なものと捉え、社会福祉の基本を理解できるよう概説を行う。【講義】
2. 社会福祉の歴史①(欧米):欧米における社会福祉の歴史について講義を行う。【講義】
3. 社会福祉の歴史②(日本):日本における社会福祉の歴史について講義を行う。【講義】
4. 子どもと家庭と福祉①:妊娠から出産、養育にかかわる制度について解説を行う。【講義】
5. 子どもと家庭の福祉②:子どもの貧困、関連行政機関、子どもの権利について解説を行う。【講義】
6. 子どもと家庭の福祉③:児童福祉関連施設やサービス利用の仕組み、関連法についての解説を行う。【講義】
7. 共感・同調の違いについて考えてみよう。動画から読み取る福祉的視点【講義・動画視聴】
8. 社会保障:医療保健・年金制度を中心に社会保険を解説する。【講義】
9. 障がい児・者福祉①:障がいの捉え方、障がい児・者福祉について講義を行う。【講義】
10. 障がい児・者福祉②:障がいの種類、関連法・制度についての解説を行う。【講義】
11. 地域福祉:地域福祉の概説、地域福祉を支える機関・団体について解説を行う。【講義】
12. ソーシャルワーク:保育士とソーシャルワークの関連性、技法・援助技術に関して解説を行う。【講義】
13. 低所得者の福祉:生活保護の基本的な考え方や種類について解説を行う。【講義】
14. 高齢者福祉:介護保険制度及び利用者保護について解説を行なう。【講義】
15. まとめと解説 科目全体の総括を行なう。

[履修に当たっての留意点]

テキスト内で提示される事例を事前に読み、授業の概要を理解してから授業に臨む。毎回、授業に関するシートの提出を課すので、必ず提出すること。授業で配布された資料は、大切に保管し、復習に活用すること。

| [使用テキスト・参考文献] | [単位認定の方法及び基準] |
|---|---|
| 直島正樹・原田旬哉編著 (2017年)<br>『図解で学ぶ保育 社会福祉』 萌文書林 | 確認テスト 10%・定期テスト 60%・受講態度 30% |

# 授　業　概　要

| 授業のタイトル（教科名） | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| 子ども家庭支援論 | 講義 | 佐藤　由樹路 |

| 授業の回数 | 時間数(単位数) | 配当学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| 15 | 30（2） | 福祉保育学科2年・後期 | 必修 |

実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）

幼稚園教諭の経験や子育て時に行った小学校の評議員や学習ボランティアでの経験を活かし、子どもの発達とその保護者の抱える問題や地域社会との連携等について実際の子どもを取り巻く環境について触れながら行う。

[授業の目的・ねらい]

多様性を増し変化し続ける現代社会の家庭の姿を理解し、家庭を支援する理論を学ぶ。

[授業全体の内容の概要]

子育て家庭を取り巻く社会状況の変化や子育て家庭への支援体制について理解し、家庭支援の意義や保育者としての新聞報道や身近な事例と演習を交えながら具体的に学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・現代社会における家庭支援の必要性とその実際を理解し寄り添えるようになる。

・子どもの保育に関する相談・援助・助言等に取り組むための手法を習得する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1.子ども家庭支援の意義と役割（家庭支援の意義と必要性について解説する。）演習問題1-1（講義）

2.子ども家庭の目的と意義（家庭支援の機能について解説する。）演習問題1-2、3（講義）

3.子どもの発達と親発達（人の人生について解説する。）（講義）

4.保育士の専門性を活かした子ども家庭支援と意義（ジェノグラム、エコマップ、社会資源について調べ説明をする。）演習問題3-1，2，3（講義）

5.子どもの育ちの喜びの共有（ロールプレイ、ディスカッションについて説明し実践する。）演習問題3-4，5，6（講義・グループワーク

6.保護者及び地域が有する子育て（保護者の養育力向上について解説する。）演習問題3-7，8（講義）

7.保育士に求められる基本的態度（ロールプレイをする。）演習問題3-9，10、11，12、13（講義・グループワーク）

8.家庭の状況に応じた支援（相談対応と家庭機能と地域資源の活用を説明する。）演習3-14、15，16 （講義）

9.子育て家庭の支援体制（保育士になったつもりで考えてみる。）演習問題4-1 （講義）

10.子育て支援施策（ロールプレイをする。）演習問題4-2 （講義・グループワーク）

11. 次世代育成支援施策の推進（ワークライフバラ、男女共同参画を説明する。）演習問題4-3（講義）

12.多様な支援の展開と関係機関との連携（児童虐待やDV、保育所保育を解説する。）演習問題5-1（講義）

13.地域子育て家庭への支援（要保護児童への対応について説明する。）演習問題5-2（講義）

14.現状と課題（近隣会議を通じた支援について解説する。）講義

15.まとめ

[履修に当たっての留意点]

自分の考えをまとめ演習問題に取り組む。グループワークでの積極的な発言をしていくことを心掛け、他者の意見にも耳を傾ける。保育者になったことを想定して考えていく。

| [使用テキスト・参考文献] | [単位認定の方法及び基準] |
|---|---|
| 吉田眞理　(2023年)　『児童の福祉を支える家庭支援論』　萌文書林 | 定期試験80%　受講態度、出欠席遅刻、提出物等20% |

# 授 業 概 要

| 授業のタイトル(教科名) | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| 児童福祉特殊 | 講 義 | 佐藤 由樹路 |

| 授業の回数 | 時間数(単位数) | 配当学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| 15 | 30(2) | 福祉保育学科2年・後期 | 選 択 |

実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性)

幼稚園教諭としての現場経験を活かし、子どもの発達段階や子どもの生活、遊びについて実際の子どもの様子について触れながら行う。

[授業の目的・ねらい]

保育の新制度に伴い幼児の発達性の観点から、幼小の接続と同時に乳幼児からの発達の道筋を理解し、適切な指導助言について学修する。

[授業全体の内容の概要]

教育・保育をすすめるうえでの「保育者」の役割と専門性の理解、および実際の教育・保育方法を学ぶ。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

・保育方法の基本的な考えを理解し、現状を正しく把握し、それに沿った指導や援助ができる。
・保育者として、子どもたちの感性や興味関心に反応し、保育を創造する保育方法などを学び実践できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1.保育方法とは何かについて説明する。(講義)
2.子ども理解からはじまる保育方法について説明する。(講義)
3.環境を生かした保育方法を概説する。(講義、グループワーク)
4.遊びを通しての総合的な指導方法を説明する。(講義、グループワーク)
5.個と集団を生かした保育方法について説明する。(講義)
6.子どもにふさわしい園生活と保育形態について説明する。(講義)
7.3・4・5歳児の発達の時期に応じた保育方法について説明する。(講義)
8.3・4・5歳児の発達の時期に応じた保育方法ついて説明する。(講義)
9.0・1・2歳児の発達の時期に応じた保育方法ついて説明する。(講義)
10.0・1・2歳児の発達の時期に応じた保育方法ついて説明する。(講義)
11.保育の計画・実践・評価について説明する。(講義、指導案作成)
12.家庭・地域との連携を生かした保育について説明する。(講義)
13.小学校との交流活動のデザインについて説明する。(講義)
14.配慮を要する子どもへの保育方法について説明する。(講義)
15.まとめと解説

[履修に当たっての留意点]

積極的に授業に参加する。保育者になった時のことを踏まえて授業を受ける。

| [使用テキスト・参考文献] | [単位認定の方法及び基準] |
|---|---|
| 大豆生田啓友 渡邉英則 編著 (2020年)<br>『保育方法・指導法』ミネルヴァ書房 | 受講態度出欠席遅刻等 20%<br>定期試験 80% |

# 授 業 概 要

| 授業のタイトル（教科名） | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| 子どもの理解と援助 | 演習 | 赤石　花子 |

| 授業の回数 | 時間数(単位数) | 配当学科・学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| 15 | 30(1) | 福祉保育学科2年・後期 | 必修 |

実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）

担当教員は、幼保連携型こども園や教育に関する施設等の様々な実務経験を基に、子どもの発達段階や生活背景を理解するための視点や、求められる援助と方法について、具体例を挙げながら解説をする。子ども理解のための基礎知識と、援助のための根拠や方法が習得できるような授業展開をする。

[授業の目的・ねらい]

・基本となる理論、概要を理解し、事例と照らし合わせて考察することで内容の理解を深める。

・さまざまな事例に触れ、子どもやその家族についての理解を深める力と、援助するために有効な手立てについて学ぶ。

[授業全体の内容の概要]

・子ども理解と援助には保護者との連携が特に重要であることから、保育における記録や情報公開の方法ついての知識と技術を習得する。また、ドキュメンテーションを効果的に活かすための基礎を押さえる。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

① 保育者として子どもの成長発達にかかわることに対する倫理観が身につく。

② 異なる環境や発達段階にある子どもとその家族への援助の在り方について、言語化できるようになる

③ 実践の科目として活用できるような思考、判断力、コミュニケーションスキルを身につける。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1.オリエンテーション ・授業概要説明、子供理解の視点 【講義→演習】

2.子ども理解の方法① ・発達や個人差など、子どもの多様性を理解する 【講義→演習】

3.子ども理解の方法② ・保育指針や教育要領にみる、子ども理解と援助の基礎的理論【講義→演習】

4.子どもの育ちの様子① ・保育者と子ども、同年齢の子ども、異年齢の子ども同士の関係【講義→演習】

5.子どもの育ちの様子② ・個から集団のかかわりの中での育ちの過程を捉える。【講義→演習】

6.子どもの育ちの様子③ ・子どもの意思表現と葛藤、つまずきを捉え、保育者としての援助を考える。【講義→演習】

7.環境の理解と構成① ・保育環境を構成する保育者の視点【講義→演習】

8.環境の理解と構成② ・家庭や社会的環境など、子どもを取り巻く環境への配慮と援助【講義→演習】

9.理解に基づく発達援助① ・発達を援助する保育者の役割を明確にする。【講義→演習】

10.理解に基づく発達援助② ・適切な援助をするために重要となる個別計画と評価【講義→演習】

11.特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助 ・インクルーシブ保育、子どもの発達支援の多様性【講義→演習】

12.就学への支援 ・発達と学びの連続性を見据えた就学支援の本質とは【講義→演習】

13.エピソード記述方法① ・記録と情報共有がもたらす子ども理解への効果【講義→実践】

14.エピソード記述方法②・子ども理解を共有する園と保護者、地域にとっての効果【講義→実践】

15.まとめ・子ども理解と援助について振り返り【試験】

[履修に当たっての留意点]

演習では自分の考えを積極的に発信し、授業での学習と、実習での経験がリンクする学びとなるようにすること。

[使用テキスト・参考文献]

入江礼子 小原敏郎（2019年）『子ども理解の理論及び方法 ― ドキュメンテーション（記録）を活用した保育』萌文書林

厚生労働省『保育所保育指針解説』 フレーベル館

文部科学省『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育保育要領』 フレーベル館

[単位認定の方法及び基準]

授業態度(意欲・姿勢) 30%

課題への取り組み 30%

提出物・科目試験 40%

# 授 業 概 要

| 授業のタイトル（教科名） | | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|---|
| 子どもの食と栄養 | | 演習 | 平石 仁恵 |
| 授業の回数 | 時間数(単位数) | 配当学年・時期 | 必修・選択 |
| 30 | 60 （2） | 福祉保育学科2年 前期 | 必修 |

実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）

主に高校生以下の子どもをもつ家庭の支援を行っていることから、実際目にした食をめぐる諸問題を、講義の中で事例的に紹介している。栄養を摂取するだけの食ではなく、子どもをめぐる広い意味での食生活を考えたい。

[授業の目的・ねらい]

食事は単なる栄養源ではなく、おいしく食べ、心を育むものである。本科目は、食生活の意義や栄養に関する知識と技術の習得を目的とする。また、演習や発表を通じて食に関する情報共有を図る。

[授業全体の内容の概要]

子どもの成長の源である食べ物の摂取と栄養についての講義、現場で役立つ実習、口頭発表などを通じて実践力を培う。

＊本科目は調理実習が予定されていますが、クラス内の感染症の状況により、講義内容や実習時期、実習内容を変更する可能性があります。また暑い時期には実習を控える可能性があり、それにより講義内容の変更や入れ替えが生じる場合があります。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・栄養素、食文化、食物アレルギー、食育について、それらの内容と重要性が理解できる。
・目的に合った調理、衛生行動、献立作成ができるようになる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

1. オリエンテーション 講義の進め方、課題、評価方法について説明する（講義）。
2. 子どもの健康と食生活の意義について解説する（講義）。自身の食生活をチェックする（演習）。
3. 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能①（講義）。学生による課題発表。
4. 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能②（講義）。学生による課題発表。
5. 食事摂取基準と献立作成・調理の基本。調理実習についての事前説明（講義）。学生課題発表。
6. 調理室に慣れるための簡単な調理と試食①（実習）。
7. 乳児期の授乳・離乳の意義と食生活について解説する（講義）。学生による課題発表
8. 調理室に慣れるための簡単な調理と試食②（実習）。
9. 幼児期の心身の発達と食生活について解説する（講義）。学生による課題発表
10. 幼児期の間食の調理と試食（実習）。
11. 学童期の心身の発達と食生活について解説する（講義）。学生による課題発表。
12. 学童期の間食の調理と試食（実習）。
13. 生涯発達と食生活について解説する（講義）。学生による課題発表。
14. 妊娠期の貧血に勧めたい調理と試食（実習）。
15. まとめと解説。筆記試験。

〔履修に当たっての留意点〕

・調理実習時にはガイダンスに従い、身支度を整えること。
・実習の手順書を事前に読んで実習に臨むこと。実習後に、自宅で再度調理することが望ましい。

| 〔使用テキスト・参考文献〕 | 〔単位認定の方法及び基準〕 |
|---|---|
| 菅原 園 他 （2023年第4版）<br>『発育期の子どもの食と栄養』 学建書院 | 筆記試験 50% 課題発表・実習態度 50% |

# 授 業 概 要

| 授業のタイトル（教科名） | | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|---|
| 子どもの食と栄養 | | 演習 | 平石　仁恵 |
| 授業の回数 | 時間数(単位数) | 配当学年・時期 | 必修・選択 |
| 30 | 60 （2） | 福祉保育学科2年　後期 | 必修 |

実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）

主に高校生以下の子どもをもつ家庭の支援を行っていることから、実際目にした食をめぐる諸問題を、講義の中で事例的に紹介している。栄養を摂取するだけの食ではなく、子どもをめぐる広い意味での食生活を考えたい。

[授業の目的・ねらい]

食事は単なる栄養源ではなく、おいしく食べ、心を育むものである。本科目は、食生活の意義や栄養に関する知識と技術の習得を目的とする。また、演習や発表を通じて食に関する情報共有を図る。

[授業全体の内容の概要]

子どもの成長の源である食べ物の摂取と栄養についての講義、現場で役立つ実習、口頭発表などを通じて実践力を培う。

＊本科目は調理実習が予定されていますが、クラス内の感染症の状況により、講義内容や実習時期、実習内容を変更する可能性があります。また暑い時期には実習を控える可能性があり、それにより講義内容の変更や入れ替えが生じる場合があります。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・栄養素、食文化、食物アレルギー、食育について、それらの内容と重要性が理解できる。

・目的に合った調理、衛生行動、献立や食育便りの作成ができるようになる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

16. 保育における食育の基本的考え方と評価方法、後期の課題発表について説明する（講義）。
17. 食育のための環境について解説する（講義）。食育便りの作成①（演習）。学生課題発表。
18. 食育便りの作成②（演習）。学生による課題発表。
19. 地域の関係機関、職員間の連携について解説する（講義）。保護者支援グループワーク（演習）。
20. 食育の現状と今後の課題、家庭における食事と課題、実習レシピ解説（講義）。学生課題発表。
21. 食育活動につながるおやつの調理と試食（実習）。
22. 児童福祉施設における食事と栄養について解説する。実習レシピ解説（講義）。学生課題発表。
23. 給食で人気の料理またはおやつの調理と試食（実習）。
24. 疾病および体調不良のある子ども、障害のある子どもへの対応（講義）。学生課題発表。
25. 病気の時の献立、調理と試食（実習）。
26. 食物アレルギーについて解説する。実習レシピの解説（講義）。視聴覚教材。学生課題発表。
27. アレルギー対応食の調理と試食（実習）。
28. 緊急時・災害時への対応。実習レシピの解説（講義）。学生課題発表。
29. 非常時・災害時の調理と試食（実習）。
30. まとめと解説。筆記試験。

〔履修に当たっての留意点〕

・調理実習時にはガイダンスに従い、身支度を整えること。

・実習の手順書を事前に読んで実習に臨むこと。実習後に、自宅で再度調理することが望ましい。

| 〔使用テキスト・参考文献〕 | 〔単位認定の方法及び基準〕 |
|---|---|
| 菅原 園 他（2023年第4版）<br>『発育期の子どもの食と栄養』学建書院 | 筆記試験　50%　課題発表・実習態度　50% |

# 授 業 概 要

| 授業のタイトル（教科名） | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| 障害者福祉論II | 講義 | 齋藤 至孝 |

| 授業の回数 | 時間数(単位数) | 配当学科・学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| 15回 | 30（2） | 福祉保育学科・2年・後期 | 必修 |

実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性)

知的障害者施設（就労支援施設）の生活支援員や、介護老人保健施設の支援相談員としての実務経験を活かし、実際の現場でのエピソードを交えながら、ボランティアや将来現場で役立つ内容の講義を行い、各自のイメージアップにつなげる。

[授業の目的・ねらい]

障害者福祉の現状や課題を学ぶことにより，今後の障害者福祉のあり方について自分なりの考えを持つことができる．

[授業全体の内容の概要]

それぞれの障害における特性について理解を深め，サービスの特徴を押さえながら，自立と参加を支えるための課題を考察する．

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

① 医学的，心理学的，社会的な側面から，各障害の主な特徴を説明できる．
② 障害者の生活を「当事者」の立場から理解することの必要性と困難さについて説明できる

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1. オリエンテーション 障害の基礎的理解
2. 障害のある人の生活の理解 視覚機能，視覚障害について解説する．(講義)
3. 障害のある人の生活の理解 聴覚機能，聴覚障害について解説する．(講義)
4. 障害のある人の生活の理解 肢体不自由(運動機能障害)について解説する．(講義)
5. 障害のある人の生活の理解 重複障害について解説する．(講義)
6. 障害のある人の生活の理解 知的障害について解説する．(講義)
7. 障害のある人の生活の理解 精神障害について解説する．(講義)
8. 障害のある人の生活の理解 高次脳機能障害について解説する．(講義)
9. 障害のある人の生活の理解 発達障害について解説する．(講義)
10. 障害のある人の生活の理解 重症心身障害について解説する．(講義)
11. 障害福祉に関連する制度について解説する．(講義)
12. 内部障害の特性について解説する．(講義)
13. 連携と協同について解説する．(講義)
14. 障害のある人に対する支援 意思決定支援，アセスメント，社会資源について解説する．(講義)
15. まとめと解説

[履修に当たっての留意点]

遅刻や授業中のスマートフォンの操作，提出物の未提出は，望ましくない授業態度として減点します．

[使用テキスト・参考文献]

最新・介護福祉士養成講座14（第2版）
「障害の理解」

[単位認定の方法及び基準]

試験 60%
授業参加度 40%

# 授 業 概 要

| 授業のタイトル（教科名） | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| 保育の計画と評価 | 講義 | 赤石　花子 |

| 授業の回数 | 時間数(単位数) | 配当学科・学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| 15 | 30(1) | 福祉保育学科2年・前期 | 必修 |

実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）
担当教員は、幼保連携型こども園や教育に関する施設等の様々な実務経験の中で、保育の計画と評価の内容を、実際の保育活動と照らし合わせながら解説をし、保育計画の必要性を理解する。

[授業の目的・ねらい]
・保育計画は、子どもの発達過程を踏まえて、保育内容が組織的、計画的に構成されている事がとても重要であることを理解する。
・活動が主体的に行われるために、保育者に必要な配慮事項を盛り込んだ計画の作成になるよう、基礎的な知識を身に付ける。

[授業全体の内容の概要]
・実際の現場で行事や遊びを想定し、より具体的な指導計画の作成方法を体験する。計画、実施 評価・改善(PDCA)の繰り返しにより、 活動が連続性をもった取り組みになることを学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
① 活動の目的を明確にするための計画の作成ができるようになることを目指す。
② 指導計画作成にあたり、幼児が主体となる活動にするための要となるポイントを理解する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
コマ数

1.オリエンテーション ・授業概要説明、教育・保育の計画と評価の基本【講義→ワーク】
2.教育・保育の計画と評価の基本【講義→ワーク】
3.・幼稚園、保育所、認定こども園における教育・保育の計画【講義→ワーク】
4.教育課程および全体的な計画等の編成の実際【講義→グループ演習】
5.保育計画・準備①指導計画（短期的）の作成【講義→グループ演習】
6.保育計画・準備②指導計画（短期的）の作成【講義→グループ演習】
7.保育計画をもとにした模擬保育の展開①【グループ演習】
8.保育計画をもとにした模擬保育の展開②【グループ演習】
9.保育計画の振り返り・評価①【講義→グループワーク】
10.保育計画の振り返り・評価②【講義→グループワーク】
11.教育・保育の記録と省察【講義→グループ演習】
12.教育・保育の評価と改善【講義→ワーク】
13.保育の質の向上・見直しと改善の重要性について【講義→ワーク】
14.教育・保育の改善の実際【講義→ワーク】
15.まとめ・試験

[履修に当たっての留意点]
実際の保育に参加する際には、動きやすく汚れてもよい服装で臨むこと。
行事と園庭遊びへの参加は、受け入れ側の都合により変更の可能性があるため、それに伴う授業内容の変更もある。

[使用テキスト・参考文献]
宮川萬寿美編著　野津直樹　内山絵美子他　（2024年）
『保育の計画と評価－豊富な例で1からわかる』萌文書林
『保育所保育指針解説』 厚生労働省　フレーベル館
『幼稚園教育要領解説』 文部科学省　フレーベル館
『幼保連携型認定こども園教育保育要領』
内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館

[単位認定の方法及び基準]
授業・保育参加への意欲・態度　30%
課題への取り組み　30%
提出物・科目試験　40%

# 授 業 概 要

| 授業のタイトル（教科名） | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| 音楽Ⅱ | 演 習 | 吉野成子　長谷川三保子　清水和美 |

| 授業の回数 | 時間数(単位数) | 配当学科・学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| 30 | 60（2） | 福祉保育学科2年前期 | 必修 |

実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）

担当教員は、小・中・高校・大学やこども園、またピアノ実技指導の現場での経験を有している。ピアノ演奏に必要な基礎技術が習得できるよう指導を行う。また、学生個々が有する音楽の基礎知識を確認して活用できるように指導する。

[授業の目的・ねらい]

1年次で学んだピアノの基礎技術を基に、保育の場で扱う教材を学習し、「うたう」ことを加えた技術の習得と表現方法を学ぶ

[授業全体の内容の概要]

テキストより課題曲を決め「弾きながらうたう」ことができるようになるための個人指導を行う。
課題曲が終了した者は、選択曲へ進む。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

ピアノ伴奏をしながら豊かな声で、曲を理解して、子供たちをリードしてうたえるようにする。
また、使いやすい伴奏を自ら考え、弾けるようにする。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1. 授業概要説明・個人レッスン（春期休暇課題）
2. 伴奏付け実技指導・歌唱指導・個人レッスン
3. 個人レッスン　（行事の歌）
4. 〃　（春夏の歌）
5. 〃
6. 〃
7. 〃
8. 〃　（秋の歌）
9. 〃　進度の見直し・初見指導
10. 〃
11. 〃
12. 〃
13. 前期実技試験
14. 前期実技まとめ・実習事前実技指導
15. 実習事前実技指導

※ 必要に応じて、実習先からの課題指導
他授業との関連を考慮

[履修に当たっての留意点]

演奏技術の習得・向上は、日々の実践の積み重ねが重要である。そのために授業時間以外での個人練習は必須である。各々の努力を期待する。

| [使用テキスト・参考文献] | [単位認定の方法及び基準] |
|---|---|
| 有村さやか他 編著『やさしい子どもの歌』（2023 年）<br>ミネルヴァ書房　プリント適時配布 | （試験やレポートの評価基準など）<br>実技試験・授業態度 |

# 授 業 概 要

| 授業のタイトル(教科名) | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| 音楽Ⅱ | 演 習 | 吉野成子　長谷川三保子　清水和美 |

| 授業の回数 | 時間数(単位数) | 配当学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| 30 | 60(2) | 福祉保育学科2年後期 | 必 修 |

実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性)

担当教員は、小・中・高校・大学やこども園、またピアノ実技指導の現場での経験を有している。ピアノ演奏に必要な基礎技術が習得できるよう指導を行う。また、学生個々が有する音楽の基礎知識を確認して活用できるように指導する

[授業の目的・ねらい]

前期で学んだ技術の発展、実用への応用をめざす

[授業全体の内容の概要]

「課題曲」に取り組み、終了した者は、選択曲にすすむ

実習曲の提示に則した指導も行う

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

「弾きうたい」できる楽曲を増やす

よく通る、豊かな声での歌唱をめざす

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

16. 実習前実技個人指導 (実習先よりの課題曲)
17. 〃
18. 〃
19. 〃
20. 後期課題曲歌唱指導・個人レッスン
21. 個人レッスン
22. 〃
23. 〃 (行事の歌)
24. 〃 (冬の歌)
25. 〃
26. 〃
27. 〃
28. 〃
29. 後期実技試験
30. 学年まとめ

※ 必要に応じて、実習曲の指導
他授業との関連を考慮
歌唱指導適時

[履修に当たっての留意点]

演奏技術の習得・向上は、日々の実践の積み重ねが重要である。そのために授業時間以外での個人練習は必須である。各々の積極的な努力を期待する。

| [使用テキスト・参考文献] | [単位認定の方法及び基準] |
|---|---|
| 有村さやか他 編著『やさしい子どもの歌』(2023 年)<br>ミネルヴァ書房　プリント適時配布 | (試験やレポートの評価基準など)<br>実技試験・授業態度 |

# 授 業 概 要

| 授業のタイトル(教科名) | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| 図画工作Ⅱ | 演 習 | 佐藤 由樹路 |

| 授業の回数 | 時間数(単位数) | 配当学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| 15 | 30(1) | 福祉保育学科2年・後期 | 選 択 |

実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性)

幼稚園教諭としての現場経験を活かし、子どもの発達段階や子どもの生活、遊びについて実際の子どもの様子について触れながら行う。

[授業の目的・ねらい]

幼児期および自動機の発達段階に応じた、図画工作の目標と内容を理解したうえで基礎的な技術・知識を身に付け製作活動の喜びを子ども自ら感じられる活動になるよう様々な造形活動を学ぶ。

[授業全体の内容の概要]

・創造的な造形活動を行う中で、実践に向けての指導の方法を習得する。
・様々な教材に触れ、その特性を知り手法や方法を学ぶ。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

素材の特性を理解し、創造性豊かな様々なものを作ることができる。また、幼児指導において、発達段階に応じた援助について理解ができ実践できるようになる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1. 秋の製作について説明する。(折り紙を使って折る、貼る、仕上げる。)【実技】
2. 秋の製作について説明する。(年齢別指導方法、折り紙を使って折る、貼る、仕上げる。)【実技】
3. プラ版つくりの説明をする。【実技】
4. プラ版つくりの説明をする。【実技】
5. 新聞紙遊びの説明をする。【実技】
6. 音のなる物作りの説明をする。【実技】
7. スライム作りの説明をする。【実技】
8. 野菜スタンプの説明をする。【実技】
9. 月日曜日天気の日めくり表を作る説明する。【実技】
10. バルーンアートについて説明する。【実技】
11. 友だちの顔を描くことについての説明をする。【実技】
12. 皆で共同作品について説明する。(学校内の壁面構成をする)【実技】 場所
13. 皆で共同作品について説明する。(学校内の壁面構成をする)【実技】 階段(1F～2F, 2F～3F
14. 皆で共同作品について説明する。(学校内の壁面構成をする)【実技】 3F～4F)
15. まとめと解説 合同教室、食堂

[履修に当たっての留意点]

積極的に授業に参加する。保育者になった時のことを踏まえて授業を受ける。

| [使用テキスト・参考文献] | [単位認定の方法及び基準] |
|---|---|
| | 提出作品 60%<br>授業態度、話し合いの様子事後報告書等 40% |

# 授 業 概 要

| 授業のタイトル(教科名) | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| リトミック | 演 習 | 佐藤 由樹路 |

| 授業の回数 | 時間数(単位数) | 配当学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| 15 | 30(1) | 福祉保育学科2年・後期 | 選 択 |

実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性)

幼稚園教諭としての現場経験を活かし、子どもの発達段階や子どもの生活、遊びについて実際の子どもの様子について触れながら行う。

[授業の目的・ねらい]

音楽やリズムを通して子どもの豊かな育ちへの援助と指導ができるよう、実践的指導力を習得することを目的とする。

[授業全体の内容の概要]

子どもの感覚・意欲・創造性を育むため、音楽を構成している要素である音符・拍子等を体で表現し、リズム運動に必要な基礎となる体操やステップなどを学ぶ。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

・音や音楽から感じたことを身体で表現することができる。
・音楽感覚を育てるためのリズム指導の重要性について理解し実践することができる。
・幼児期のリズム指導のさまざまな手法を習得し実践できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1.リトミックは何かについて説明する。(講義)
2.子どもの成長・発達と音楽(0・1・2歳)について説明する。(講義)
3.子どもの成長・発達と音楽(3・4・5歳)について説明する。(講義)
4.はじめのリトミックとして手遊びをする。(実技)
5.基礎リズムの動き(歩く、走る、ゆっくり歩くなど)をする。(実技)
6.基礎リズムの動き(ものを使って動いてみる)をする。(実技)
7.年齢別リトミックの実際(1歳)に動く。(実技)
8.年齢別リトミックの実際(2歳)に動く。(実技)
9.年齢別リトミックの実際(3歳)に動く。(実技)
10.年齢別リトミックの実際(4歳)に動く。(実技)
11.年齢別リトミックの実際(5歳)に動く。(実技)
12.リトミック指導をグループで考える。(グループワーク)
13.リトミック指導をグループで考える。(グループワーク)
14.リトミック指導のグループ発表をする。(グループワーク)
15.まとめ

[履修に当たっての留意点]

積極的に授業に参加する。保育者になった時のことを踏まえて授業を受ける。

| [使用テキスト・参考文献] | [単位認定の方法及び基準] |
|---|---|
| 石丸由里 (2017年)『基礎からわかるリトミック！リトミック！』 ひかりのくに<br>神原雅之 監修 (2013年)『楽しみながらからだを動かす1～5歳児のかんたんリトミック』 ナツメ社 | 受講態度、グループ活動や発表 80%<br>出欠席遅刻等 20% |

# 授 業 概 要

| 授業のタイトル（教科名） | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| 幼児体育 | 演習 | 星野　邦彦 |

| 授業の回数 | 時間数(単位数) | 配当学科・学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| 15 | 30（1） | 福祉保育学科　2年　後期 | 必修 |

実務経験のある教員による授業科目　（実務経験の概要と授業との関連性）
小学校での体育授業指導の実務経験をもとに、各運動遊びの環境校正や導入方法、実践、指導、補助などの方法が習得できるよう授業を展開していく。

[授業の目的・ねらい]
　子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術、及び身体表現等の表現活動に関する知識や技術を習得する。表現活動に係る教材等の活用と、保育の環境校正や具体的展開の技術を習得することを目的とする。
[授業全体の内容の概要]
　子どもの生活の中心は「あそび」である。子どもたちは多様なあそびの中で心身の発達・発育が促進され、運動技術も身についていく。保育所・幼稚園実習および実際の現場で実践できるように、子どもの運動あそびの基礎的・理論的根拠を把握し、実践に必要な方法・技術を身につける。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・子どもの発育発達に即した運動能力を理解し、年齢にあった運動遊びを考え指導できるようになる。
・指導法や補助など、さまざまな運動遊びに必要な知識と技術を習得する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
コマ数

1. オリエンテーション　運動あそびの必要性と目的について説明する。【講義】
2. 幼児期の心身の発達について説明する。【講義】
3. 運動あそびの指導の実際について説明する。【講義】
4. 「歩く・跳ぶ」の運動あそびを体験する。【グループ発表】
5. 「走る」の運動あそびを体験する。【グループ発表】
6. 「小さいボール」を使用した運動あそびを体験する。【グループ発表】
7. 「大きいボール」を使用した運動あそびを体験する。【グループ発表】
8. 「縄」を使用した運動あそびを体験する。【グループ発表】
9. 「ドッヂビー」を使用した運動あそびを体験する。【グループ発表】
10. 「フープ・積み木」を使用した運動あそびを体験する。【グループ発表】
11. 「巧技台・マット」を使用した運動あそびを体験する。【グループ発表】
12. 「身近なもの」を使用した運動あそびを体験する。【グループ発表】
13. 「なわとび」を使用した運動あそびを体験する。【グループ発表】
14. グループでリズムなわとびを作成する。【グループ学習】
15. リズムなわとびグループ発表をする。　まとめ【グループ発表】

[履修に当たっての留意点]
日々の体調管理をしっかりと行う。
運動に適した服装で授業に参加する。

[使用テキスト・参考文献]
必要に応じて資料を配布する。
参考文献
岩崎洋子（1979年）『体育あそび120』 チャイルド本社

[単位認定の方法及び基準]
授業態度（意欲・態度・協調性・発表など）70％
出席状況30％により総合評価をおこなう。

# 授　業　概　要

| 授業のタイトル（教科名） | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| 乳児保育Ⅱ | 演　習 | 佐藤　由樹路 |

| 授業の回数 | 時間数(単位数) | 配当学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| 15 | 30（1） | 福祉保育学科2年・前期 | 必修 |

実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）

幼稚園教諭として勤務する中で、子育て支援活動として未就園児とその保護者を対象に活動をしてきたことを踏まえて講義をする。また、子育て経験から未満児保育の子どもの様子やその保護者との関わりについて実践を交え授業を進めていく。

[授業の目的・ねらい]

前年度の基礎編を踏まえ、実践編として実際の0，1，2歳児の生活の様子を通してそのときどきの関わり方と保護者への対応の仕方について具体的に考える。

[授業全体の内容の概要]

課題に対しての、グループワーク、ロールプレイ、ディスカッション、振り返りなどの方法を用いたアクティブラーニングを行い、子どもや保護者一人ほとりに対しての対応の仕方を学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・子どもの個性と発達の様子をとらえる観察力や臨機応変な思考力など実践的な応用力を養い関わることができるようになる。

・3歳未満児とその保護者との関わり方や「より良い対応」についてワークを通じて実践することができる。

・多様化する（多国籍家庭や貧困家庭など）保育の現場の状況の中で実際の関わり方を習得し実践しようとすることができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1.実践編の登場人物について理解を深める。（ワークシートをまとめる。）【講義】
2.朝の受け入れ活動の保育事例を説明する。（ベーシックワークとエピソードワークをまとめる。）【講義】
3.朝の受け入れ活動の相談事例について解説する。（ロールプレイワークをまとめる。）【講義】
4.食事活動の保育事例を説明する。（ベーシックワークとエピソードワークをまとめる。）【講義】
5.食事活動の相談事例について解説する。（ロールプレイワークをしてまとめる。）【講義】
6.睡眠活動の保育事例を説明する。（ベーシックワークとエピソードワークをまとめる。）【講義】
7.睡眠活動の相談事例について解説する。（ロールプレイワークをしてまとめる。）【講義】
8.排泄活動の保育事例を説明する。（ベーシックワークとエピソードワークをまとめる。）【講義】
9.排泄活動の相談事例について解説する。（ロールプレイワークをしてまとめる。）【講義】
10.着脱・清潔活動の保育事例を説明する。（ベーシックワークとエピソードワークをまとめる。）【講義】
11.着脱・清潔活動の相談事例について解説する。（ロールプレイワークをしてまとめる。）【講義】
12.遊び活動の保育事例を説明する。（ベーシックワークとエピソードワークをまとめ。）【講義】
13.遊び活動の相談事例について解説する。（ロールプレイワークをしてまとめ。）【講義】
14.午後のお迎え・お帰り活動の保育事例を説明する。（ベーシックワークとエピソードワークとロールプレイワークをまとめる。）【講義】
15.まとめ

[履修に当たっての留意点]

保育者になった気持ちで、子どもや保護者の対応の事例を考える。他者の意見にも耳を傾ける。積極的な発言をしていく。

| [使用テキスト・参考文献] | [単位認定の方法及び基準] |
|---|---|
| 尾野明美・小湊真衣・菊地篤子　編著（2019年）『アクティブラーニング対応　乳児保育Ⅱ　1日の流れで考える発達と個性に応じた保育実践』萌文書林 | 定期試験（80％）授業態度、出欠席（20％） |

# 授 業 概 要

| 授業のタイトル（教科名） | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| 子どもの健康と安全 | 演習 | 赤田　実千代 |

| 授業の回数 | 時間数(単位数) | 配当学科・学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| 15 | 30（1） | 福祉保育学科2年・前期 | 必修 |

実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）

大学病院の精神科病棟看護師、小学校の養護教諭、保健センター看護師として乳幼児健診や予防接種の実務経験を活かし、保育者として子どもの命を守り子どもの健やかな育ちを支えるために必要な知識・技術について講じます。

[授業の目的・ねらい]

保育士には、ますます多様な役割が求められており、医学や看護の知識も必要とされるなかで、子どもの保育における健康および安全の管理に関する知識をもとに、実践力を身につける。

[授業全体の内容の概要]

子どもの保育における健康や安全管理に関する知識をどのように保育の現場で実践していくのかを、実際に体験する、調べる、考えることを通し、実践力を身につける。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

①保育における保健的観点をふまえた保育環境や援助について理解する。
②保育における衛生管理・事故防止および安全対策・災害対策について具体的に理解する。
③子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。
④保育における感染対策について、具体的に理解する。
⑤子どもの発達や状態などに即した適切な対応について、具体的に理解する。
⑥子どもの健康および安全管理に関わる、組織的取り組みや保健活動の計画および評価について、具体的に理解する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1.子どもの健康と保育の環境 ： 子どもの健康な育ちを支えるうえで望ましい環境 ＜講義＞
2.子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康 ： 健康観察の具体的なポイント ＜講義・演習＞
3.衛生管理 ： 子どもの健やかな成長、疾病予防、感染拡大予防につながる衛生管理 ＜講義・演習＞
4.事故防止および安全対策 ： 子どもの事故の現状や課題をふまえた事故防止対策や安全対策 ＜講義・演習＞
5.災害への備えと危機管理 ： 災害発生時に求められる判断力と行動力 ＜講義・演習＞
6.体調不良や傷害が発生した場合の対応 ： 体調不良時に必要な観察項目の基本や応急処置 ＜講義・演習＞
7.救急処置および救急蘇生法 ： 子どもに起こりやすい事故、適切な救急処置、救急蘇生法 ＜講義・演習＞
8.感染症の集団は発生と予防と対応 ： 感染予防策 ＜講義・演習＞
9.保育における保健的対応 ： 慢性疾患児、行動に問題がある子どもへの保健的対応 ＜講義・演習＞
10.3歳未満時への適切な対応 ： 3歳未満児の成長発達と生活の特徴、成長のアセスメント ＜講義・演習＞
11.個別的な配慮を必要とする子どもへの対応 ： 食物アレルギーへの対応の方法 ＜講義・演習＞
12.障害のある子どもへの適切な対応 ： 障害のとらえ方とそれぞれの障害の特性、かかわり方 ＜講義・演習＞
13.職員間の連携・協働と組織的取り組み ： 保育所内での連携、多機関・多職種との連携 ＜講義・演習＞
14.保育における保健計画および評価 ： 保健計画および成長の評価の資料となる身体計測の技術 ＜講義・演習＞
15.子どもを中心とした家庭・専門機関・地域との連携 ： 医療的ケアを必要とする子どもの支援 ＜講義・演習＞

[履修に当たっての留意点]

1年時に学習した「子どもの保健」について復習し、理解したうえで講義に臨むこと。

[使用テキスト・参考文献]

松田博雄、金森三枝（2019年）
『新基本保育シリーズ16　子どもの健康と安全』
中央法規出版
参考資料は随時提示

[単位認定の方法及び基準]

課題・演習への取り組み　50%
課題・ミニテスト　50%

# 授　業　概　要

| 授業のタイトル（教科名） | | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|---|
| 社会的養護Ⅱ | | 演習 | 大山 知恵子 |
| 授業の回数 | 時間数（単位数） | 配当学年・時期 | 必修・選択 |
| 15 | 30（1） | 福祉保育学科２年　前期 | 必修 |

実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）

特別支援教育に携わってきた。児童・生徒の中には施設から通学している子や、家庭から通学していたが途中から施設入所となる子もいた。そういった子どもたちに関わってきた経験を活かして、社会的養護の意義や現状について伝えていく。

〔授業の目的・ねらい〕

保育を取り巻く社会環境は大きく変わり、都市化は地域生活の有り様に影響を与え、女性就労の増大、核家族化や少子化は家庭生活の根本から問い直しが求められる。豊かな人間性を持った子どもを育てることが保育の特性である。総体的に社会的養護の内容を理解し、考察していく。

〔授業全体の内容の概要〕

施設における子どもの養護は、福祉・教育・心理の統合が重要であり、心の共感を育成し、実践に生かしていくことを目的としたい。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕

社会的養護の意義を総体的に理解し、人間性を育て、実践に役立たせることができる。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

コマ数

1．.科目オリエンテーション　社会的養護における子どもの理解と支援の基本について概説する【講義】

2．「子どもの最善の利益」の、様々なケースについて解説する【講義・視聴】

3．児童自立支援計画の作成と記録及び自己評価の意義について解説する【講義】

4．社会的養護における保育士等の専門性と社会的養護の体系について解説する【講義】

5．児童福祉施設の概要（児童養護施設・児童自立支援施設）【グループ調査・発表】

6．児童福祉施設の概要（障害児入所施設・乳児院等）【グループ調査・発表】

7．里親制度の特徴とその実際について解説する【講義・視聴】

8．保育士の業務について解説する【講義・一覧表作成】

9．虐待された子どもへの支援について解説する【講義・ディスカッション】

10．子どもと家族への支援・家庭支援について解説する【講義・ディスカッション】

11．相談援助の技術の活用について解説する【講義・RP】

12．基本的日常生活支援について解説する【講義・ディスカッション】

13．.退所に向けた支援の基本について解説する【講義】

14．地域連携と家庭支援・地域住民と関係について解説する　【講義・ディスカッション】

15．社会的養護の課題と将来像について解説する【講義・発表】

〔履修に当たっての留意点〕

提示された課題は、次の授業までに調べる。

疑問に思ったことは調べたり質問をしたりして、しっかりと理解する。

| 〔使用テキスト・参考文献〕 | 〔単位認定の方法および基準〕 |
|---|---|
| 編著者　吉田眞理　著者　髙橋一弘　村田紋子(2023年)<br>『児童の福祉を支える演習社会的養護Ⅱ』萌文書林 | 試験50%・提出物50% |

# 授 業 概 要

| 授業のタイトル(教科名) | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| 子育て支援 | 演習 | 佐藤　由樹路 |

| 授業の回数 | 時間数(単位数) | 配当学科・学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| 15 | 30(1) | 福祉保育学科2年・前期 | 必修 |

実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性)

子ども支援、保護者支援の双方に必要となる基礎的知識の内容について、幼稚園での実務経験を基に、実践につながる講義をする。

[授業の目的・ねらい]

・子どもの最善の利益が尊重されるために、保育者・家庭・地域が連携することの大切さを学ぶ。

[授業全体の内容の概要]

・ 子どもとその保護者、地域とかかわっていくための基礎的な知識や環境構成について学ぶ。

・様々な事例考察を重ね、地域の子育て支援の拠点としての保育所、保育者の役割を学ぶ。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

① 社会的背景をふまえた子育て支援の本質を理解し、専門性をもつ立場として、子ども、保護者、地域にかかわる人材になることを目指す。

② コミュニケーション力とアセスメントスキルを身に着け、実践力を養う。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1.オリエンテーション ・授業概要説明 子育て支援とはなにかについて考察する＜講義・ディスカッション＞
2.子育て支援の意義について考察する(おむつ外しに悩む保護者)＜講義・ディスカッション＞
3.子育て支援の基本的価値・倫理(気になること気にならない保護者)＜講義・ディスカッション＞
4.子育て支援の基本的姿勢(貧困家庭)＜講義・ディスカッション＞
5.子育て支援に基本的技術(父子家庭)＜講義・ディスカッション＞
6.園内・園外との連携と社会資源(虐待傾向のある母子家庭)＜講義・ディスカッション＞
7.記録・評価・研修(ステップファミリー)＜講義・ディスカッション＞
8.日常会話を活用した子育て支援(かみつきによるトラブル対応)＜講義・ディスカッション＞
9.文書を活用した子育て支援(アレルギー児への医療などの対応)＜講義・ディスカッション＞
10.行事などを活用した子育て支援(日本語を母語としない保護者) ＜講義・ディスカッション＞
11.環境を活用した子育て支援(新入園児の保護者)＜講義・ディスカッション＞
12.地域子育て支援拠点における支援(ひろばデビュ―の専業主婦)＜講義・ディスカッション＞
13.入所施設における子育て支援(子どもと向き合うことに困惑を感じる保護者)＜講義・個人ワーク＞
14.通所施設における子育て支援(子どもの育ちに不安と焦りを感じる保護者)＜講義・個人ワーク＞
15.まとめと今後の課題(ケイタくん一家との再会)＜レポート課題作成・提出＞

[履修に当たっての留意点]

学びを実践に活かすため、さまざまな場面を想定しながら自分の考えを積極的に発信し課題作成をしてほしい。

| [使用テキスト・参考文献] | [単位認定の方法及び基準] |
|---|---|
| 二宮祐子 (2018年)<br>『子育て支援 15のストーリーで学ぶワークブック』<br>萌文書林 | 授業態度(意欲・姿勢) 20%<br>課題への取り組み 20%<br>演習問題の提出物の期限と内容 60% |

# 授 業 概 要

| 授業のタイトル(教科名) | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| 児童文化 | 演 習 | 鈴木 敦子 |

| 授業の回数 | 時間数(単位数) | 配当学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| 15 | 30(1) | 福祉保育学科2年・後期 | 選 択 |

実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性)

幼稚園での保育者・園長としての経験を活かし、人間形成上一番大切な時期を過ごすため、幼児期に子どもが製作素材を自主的に‘今‘どうありたいのか、またどうしたらできるのか、試行錯誤し、自らの言葉で人に伝えられるような保育を望んでいる。児童文化を通し身近な素材を活かし作る楽しさを精神力、能力、体力を生かし前向きな人間とし進めるような時間を共にありたい。

[授業の目的・ねらい]

・保育者を目指す者として、こどもの接し方・見方・考え方等、ためにどのように配慮するのか。
・豊かな人間性、感性を磨き、積極的に学び向上する。

[授業全体の内容の概要]

・児童文化面から保育に関する知識や技術を修得するため、グループ、保育実践を通し、質の向上を目指す。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

・保育者としての使命感、責任感、人間性を磨く気持ちをもつ。
・教材研究で修得した技能を保育の様々な分野で主体的に実践できる保育技術を高める。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1. 児童文化とは・・・こどもの関わる遊び・変化していく社会と児童文化
2. 美術感覚―色・形の組み合わせ等考え工夫して感性を豊かに
3. 個人・グループ活動を通し、いろいろな見方・考え方を引きだす
4. ディスカッション、意見、考え方を自分のことばで伝える 講師は学生の活動をサポートし導く
5. 実践 子どもとふれあう 学生はグループ活動 幼児と交流
6. 実践の反省評価・・・グループごとに話し合う・まとめ・発表しあう
7. 手作り絵本・・・名作童話に秘められている”心育て” 講義 プリント
   絵本が好きになる条件 シナリオ作りの準備を始める 教材をどのように活かすか
   こどもが好きな絵本 こどもに必要とする絵本 色彩の美しいものを提供 グループ活動
8. 絵本づくり・・・物語の筋書きを考え文書に絵を合わせる
9. 積み木を使って・・・わくわく積み木・トントン積み木 積む並べる道車
10. 手作り絵本発表・・・ 個人作品発表 反省 評価
11. ボルカホン制作・・・ DVD をみる 楽器(太鼓)をつくる 制作後歌、リズムに合わせ合奏
    楽 器 ＊リーダーを決め、子どもと遊ぶときボルカホン演奏ができるよう舞台に用意
    演奏後子どもにどのようなものか(たたく。触る) 子どもとの合奏
12. 実践 子どもとふれあう グループ活動 想定、気づきに留意し幼児と交流
    ボルカホン演奏 道具を使いダイナミックに遊びを展開
13. 実践の反省評価・・・グループごとに事後の話し合いのまとめをする
    発表をし合う・気づき、想定はどうであったか(社会生、人間性、知識、技術)
14. まとめと解説・・・教材研究を通し児童文化に関する様々な分野の技術は高められたか？意見交換
15. 保育者になるために・・・ 児童文化を通し保育者としてどのような人間性と質の向上を目指すか

[履修に当たっての留意点]

交流を通じて、何に気付き、子どもから何を学んだのかを常に振り返り自分のものにしてほしい。

| [使用テキスト・参考文献] | [単位認定の方法及び基準] |
|---|---|
| | レポート 40% 提出物 40%<br>授業態度 20% |

# 授 業 概 要

| 授業のタイトル(教科名) | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| 保育技術Ⅱ | 演 習 | 赤石 花子 |

| 授業の回数 | 時間数(単位数) | 配当学科・学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| 15 | 30(1) | 福祉保育学科2年・前期 | 必修 |

実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性)
担当教員は、幼保連携型こども園や教育に関する施設等の様々な実務経験の中で、実践で役立つ遊びや活動を実践例を交えながら授業を行う。

[授業の目的・ねらい]
・保育現場で必要とされる保育技術を身に付け、実践力を高める。
・保育技術、知識の向上を目指し、保育者としてのスキルアップを目指す。

[授業全体の内容の概要]
・保育の現場で実践出来る保育技術を学び、遊びや活動の引き出しを増やす。
・子どもの興味関心や、発達を考慮した遊びを提案、展開できる技術を学ぶ。
[授業修了時の達成課題(到達目標)]
・様々な保育技術を取り入れ、福祉保育学科としての集大成の作品を仕上げる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
コマ数
1.オリエンテーション 行事に合わせて壁面構成作成〈演習〉
2.壁面構成作成〈演習〉
3.壁面構成作成〈演習〉
4.保育の活動・遊び〈講義・演習〉
5.保育の活動・遊び発表〈講義・演習〉
6.学習成果の実行委員決め・計画作成〈ミーティング〉
7.学習成果発表会に向けてグループ分け〈ミーティング〉
8.学習成果発表会に向けてグループごとの計画作成〈ミーティング〉
9.学習成果発表会に向けてグループ活動〈演習〉
10.学習成果発表会に向けてグループ活動〈演習〉
11.学習成果発表会に向けてグループ活動〈演習〉
12.学習成果発表会に向けてグループ活動〈演習〉
13.学習成果発表会に向けてグループ活動〈演習〉
14.学習成果発表会に向けてグループ中間発表〈発表〉
15.学習成果発表会に向けてグループ活動中間発表振り返り〈ディスカッション〉

[履修に当たっての留意点]
保育の引き出しを増やし、今後の自分に繋げていく意識を持ち授業に臨む。
学んできた集大成を発表する場となるよう協力し合って学習成果発表会を作り上げていく。

| [使用テキスト・参考文献] | [単位認定の方法及び基準] |
|---|---|
| | 授業の意欲・態度 50%<br>提出物 50% |

# 授 業 概 要

| 授業のタイトル（教科名） | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| 保育技術Ⅱ | 演 習 | 赤石 花子 |

| 授業の回数 | 時間数(単位数) | 配当学科・学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| 15 | 30(1) | 福祉保育学科2年・後期 | 必修 |

実務経験のある教員による授業科目 （実務経験の概要と授業との関連性）
担当教員は、幼保連携型こども園や教育に関する施設等の様々な実務経験の中で、実践で役立つ遊びや活動を実践例を交えながら授業を行う。

[授業の目的・ねらい]
・保育現場で必要とされる保育技術を身に付け、実践力を高める。
・保育技術、知識の向上を目指し、保育者としてのスキルアップを目指す。

[授業全体の内容の概要]
・保育の現場で実践出来る保育技術を学び、遊びや活動の引き出しを増やす。
・子どもの興味関心や、発達を考慮した遊びを提案、展開できる技術を学ぶ。
[授業修了時の達成課題(到達目標)]
・様々な保育技術を取り入れ、福祉保育学科としての集大成の作品を仕上げる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
コマ数

1.学習成果発表会に向けてクラス活動〈ミーティング〉
2.学習成果発表会に向けてクラス活動〈演習〉
3.学習成果発表会に向けてクラス活動〈演習〉
4.学習成果発表会に向けてクラス活動〈演習〉
5.学習成果発表会に向けてクラス活動〈演習〉
6.学習成果発表会に向けてクラス活動〈演習〉
7.学習成果発表会に向けてクラス活動中間報告会〈ミーティング〉
8.学習成果発表会に向けてクラス活動〈演習〉
9.学習成果発表会に向けてクラス活動〈演習〉
10.学習成果発表会に向けてクラス活動〈演習〉
11.学習成果発表会に向けてクラス活動〈演習〉
12.学習成果発表会に向けてクラス活動〈演習〉
13.学習成果発表会に向けてグループ活動確認〈演習〉
14.学習成果発表会に向けてクラス活動〈リハーサル〉
15.学習成果発表会に向けて最終確認〈演習〉

[履修に当たっての留意点]
保育の引き出しを増やし、今後の自分に繋げていく意識を持ち授業に臨む。
学んできた集大成を発表する場となるよう協力し合って学習成果発表会を作り上げていく。

| [使用テキスト・参考文献] | [単位認定の方法及び基準] |
|---|---|
| | 授業の意欲・態度 50%<br>提出物 50% |

# 授 業 概 要

| 授業のタイトル（教科名） | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| 保育実習指導Ⅱ | 演習 | 赤石　花子 |

| 授業の回数 | 時間数(単位数) | 配当学科・学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| 30 | 60（2） | 福祉保育学科・2 年・前期 | 必修 |

実務経験のある教員による授業科目 （実務経験の概要と授業との関連性）

担当教員は、幼保連携型こども園や教育に関する施設等の様々な実務経験を活かし、保育実習Ⅰを基に、実習に向けた準備と指導案作成、報告等行いながら、実践で役立てるよう指導する。

[授業の目的・ねらい]

・保育実習Ⅰから得た知識や技術に基づき、これらを総合的に実践する応用力を培う。
・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

[授業全体の内容の概要]

・保育の理論と実践的な学習を積み重ね、実習が充実した実践の場となるよう学びを深めていく。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・保育実習Ⅰ（保育所・施設）の目的を理解し、1年次の学びを踏まえ、保育の現場で積極的に実習に取り組む。
・観察・参加実習を通して、保育の流れや展開について理解し、実践に活かす。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1. 保育実習ⅡⅢ概要説明、保育実習Ⅰ（施設）実習前オリエンテーション＜講義・個人ワーク＞
2. 保育実習Ⅰ（施設）＜発表・グループワーク＞
3. 保育実習Ⅰ（保育）実習報告会＜発表・グループワーク＞
4. 保育実習Ⅰ書類作成、日誌作成＜講義・個人ワーク＞
5. 保育実習Ⅰ（施設）実習日誌指導＜講義・個人ワーク＞
6. 保育実習Ⅰ（施設）実習計画書作成方法等最終指導＜講義・個人ワーク＞
7. 保育実習Ⅰ（施設）お礼状作成＜講義・個人ワーク＞
8. 保育実習Ⅰ（施設）振り返り＜個人ワーク＞
9. 保育実習Ⅰ（施設）情報共有＜発表＞
10. 保育実習Ⅰ（施設）実習報告会＜発表・グループワーク＞
11. 保育実習Ⅰ（施設）実習報告会＜発表・グループワーク＞
12. 保育実習Ⅱ実習先決定＜講義・個人ワーク＞
13. 保育実習Ⅱ指導計画作成＜講義・個人ワーク＞
14. 保育実習Ⅲ指導計画作成＜講義・個人ワーク＞
15. 発表・まとめ＜実践・グループワーク＞

[履修に当たっての留意点]

実習日誌準備、指導計画等、実習に直結する授業になる。事後の振り返りは個別面談を行う。

[使用テキスト・参考文献]

大豆生田啓友、渋谷行成、鈴木美枝子、田澤里喜
（2020年）『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』
中央法規出版

[単位認定の方法及び基準]

・授業態度及び課題への取り組み
・提出物
・発表
などを総合的に評価

# 授 業 概 要

| 授業のタイトル（教科名） | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| 保育実習指導Ⅱ | 演習 | 赤石　花子 |

| 授業の回数 | 時間数(単位数) | 配当学科・学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| 30 | 60（2） | 福祉保育学科・2 年・後期 | 必修 |

実務経験のある教員による授業科目 （実務経験の概要と授業との関連性）
担当教員は、幼保連携型こども園や教育に関する施設等の様々な実務経験を活かし、保育実習Ⅰを基に、実習に向けた準備と指導案作成、報告等行いながら、実践で役立てるよう指導する。

[授業の目的・ねらい]
・保育実習Ⅰから得た知識や技術に基づき、これらを総合的に実践する応用力を培う。
・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

[授業全体の内容の概要]
・保育の理論と実践的な学習を積み重ね、実習が充実した実践の場となるよう学びを深めていく。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・保育実習Ⅰ（保育所・施設）の目的を理解し、1年次の学びを踏まえ、保育の現場で積極的に実習に取り組む。
・観察・参加実習を通して、保育の流れや展開について理解し、実践に活かす。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
コマ数
1．授業内容オリエンテーション〈講義〉
2．日誌作成・各園調べ＜実践・グループワーク＞
3．日誌の記入の仕方＜講義＞
4．個人票作成・自己課題の明確化〈個人ワーク〉
5．指導計画作成〈個人ワーク〉
6．指導計画作成〈個人ワーク〉
7．指導計画作成実践〈発表〉
8.保育実習ⅡⅢの最終事前指導を行う。＜講義・個人ワーク＞
9 保育実習Ⅱのお礼状作成、振り返りシート等事後指導を行う。＜講義・個人ワーク＞
10 クラス内個人実習報告・〈発表・グループワーク〉
11.保育実習ⅡⅢ各分野の実習報告会＜発表＞
12.保育実習ⅡⅢ各分野の実習報告会＜発表＞
13.ドキュメンテーション作成①〈個人ワーク〉
14.ドキュメンテーション作成②〈個人ワーク〉
15.まとめと解説

[履修に当たっての留意点]
実習日誌準備、指導計画等、実習に直結する授業になる。事後の振り返りは個別面談を行う。。

[使用テキスト・参考文献]
大豆生田啓友、渋谷行成、鈴木美枝子、田澤里喜
(2020年)『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』
中央法規出版

[単位認定の方法及び基準]
・授業態度及び課題への取り組み
・提出物
・発表
などを総合的に評価

# 授 業 概 要

| 授業のタイトル（教科名） | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| 保育実習指導Ⅲ | 演習 | 赤石　花子 |

| 授業の回数 | 時間数(単位数) | 配当学科・学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| 30 | 60（2） | 福祉保育学科・2 年・前期 | 必修 |

実務経験のある教員による授業科目 （実務経験の概要と授業との関連性）

担当教員は、幼保連携型こども園や教育に関する施設等の様々な実務経験を活かし、保育実習Ⅰを基に、実習に向けた準備と指導案作成、報告等行いながら、実践で役立てるよう指導する。

[授業の目的・ねらい]

・保育実習Ⅰから得た知識や技術に基づき、これらを総合的に実践する応用力を培う。
・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

[授業全体の内容の概要]

・保育の理論と実践的な学習を積み重ね、実習が充実した実践の場となるよう学びを深めていく。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・保育実習Ⅰ(保育所・施設)の目的を理解し、1年次の学びを踏まえ、保育の現場で積極的に実習に取り組む。
・観察・参加実習を通して、保育の流れや展開について理解し、実践に活かす。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1. 保育実習ⅡⅢ概要説明、保育実習Ⅰ（施設）実習前オリエンテーション＜講義・個人ワーク＞
2. 保育実習Ⅰ（施設）＜発表・グループワーク＞
3. 保育実習Ⅰ（保育）実習報告会＜発表・グループワーク＞
4. 保育実習Ⅰ書類作成、日誌作成＜講義・個人ワーク＞
5. 保育実習Ⅰ（施設）実習日誌指導＜講義・個人ワーク＞
6. 保育実習Ⅰ（施設）実習計画書作成方法等最終指導＜講義・個人ワーク＞
7. 保育実習Ⅰ（施設）お礼状作成＜講義・個人ワーク＞
8. 保育実習Ⅰ（施設）振り返り＜個人ワーク＞
9. 保育実習Ⅰ（施設）情報共有＜発表＞
10. 保育実習Ⅰ（施設）実習報告会＜発表・グループワーク＞
11. 保育実習Ⅰ（施設）実習報告会＜発表・グループワーク＞
12. 保育実習Ⅲ実習先決定＜講義・個人ワーク＞
13. 保育実習Ⅲ実習の概要確認＜講義・個人ワーク＞
14. 保育実習Ⅲ指導計画作成＜講義・個人ワーク＞
15. 発表・まとめ＜実践・グループワーク＞

[履修に当たっての留意点]

実習日誌準備、指導計画等、実習に直結する授業になる。事後の振り返りは個別面談を行う。

[使用テキスト・参考文献]

大豆生田啓友、渋谷行成、鈴木美枝子、田澤里喜
(2020年)『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』
中央法規出版

[単位認定の方法及び基準]

・授業態度及び課題への取り組み
・提出物
・発表
などを総合的に評価

# 授 業 概 要

| 授業のタイトル（教科名） | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| 保育実習指導Ⅲ | 演習 | 赤石　花子 |

| 授業の回数 | 時間数(単位数) | 配当学科・学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| 30 | 60（2） | 福祉保育学科・2 年・後期 | 必修 |

実務経験のある教員による授業科目 （実務経験の概要と授業との関連性）
担当教員は、幼保連携型こども園や教育に関する施設等の様々な実務経験を活かし、保育実習Ⅰを基に、実習に向けた準備と指導案作成、報告等行いながら、実践で役立てるよう指導する。

[授業の目的・ねらい]
・保育実習Ⅰから得た知識や技術に基づき、これらを総合的に実践する応用力を培う。
・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

[授業全体の内容の概要]
・保育の理論と実践的な学習を積み重ね、実習が充実した実践の場となるよう学びを深めていく。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・保育実習Ⅰ(保育所・施設)の目的を理解し、1年次の学びを踏まえ、保育の現場で積極的に実習に取り組む。
・観察・参加実習を通して、保育の流れや展開について理解し、実践に活かす。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
コマ数
1. 授業内容オリエンテーション〈講義〉
2. 日誌作成・各施設調べ＜実践・グループワーク＞
3. 保育実習＜レポート作成・個人ワーク＞
4. 個人票作成・自己課題の明確化〈個人ワーク〉
5. 日誌の書き方〈講義〉
6. 指導計画作成〈グループワーク・個人ワーク〉
7. 保育実習Ⅲ実習目標、目的の確認をする。〈講義・グループワーク〉
8.保育実習ⅡⅢの最終事前指導を行う。＜講義・個人ワーク＞
9 保育実習Ⅲのお礼状作成、振り返りシート等事後指導を行う。＜講義・個人ワーク＞
10 クラス内個人実習報告・〈発表・グループワーク〉
11.保育実習ⅡⅢ各分野の実習報告会＜発表＞
12.保育実習ⅡⅢ各分野の実習報告会＜発表＞
13.ドキュメンテーション作成①〈個人ワーク〉
14.ドキュメンテーション作成②〈個人ワーク〉
15.まとめと解説

[履修に当たっての留意点]
実習日誌準備、指導計画等、実習に直結する授業になる。事後の振り返りは個別面談を行う。。

[使用テキスト・参考文献]
大豆生田啓友、渋谷行成、鈴木美枝子、田澤里喜
(2020年)『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』
中央法規出版

[単位認定の方法及び基準]
・授業態度及び課題への取り組み
・提出物
・発表
などを総合的に評価

# 授 業 概 要

| 授業のタイトル（教科名） | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| 保育実践演習 | 演習 | 赤石　花子 |

| 授業の回数 | 時間数(単位数) | 配当学科・学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| 30 | 60（2） | 福祉保育学科・2年・前期 | 必修 |

実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）

担当教員は、幼保連携型こども園や教育に関係する施設等の様々な実務経験の中で、保育の現場で知っておくと役に立つ基礎知識やスキルを、実践を通して伝える。保育の実践を通して省察を繰り返し、クラスの仲間と意見しあいながら実践経験を積んでいけるよう指導する。

[授業の目的・ねらい]

・福祉保育学科での学習知と実習等で学んだ指導方法や技術及び実践方法の統合を図り、保育者に求められる姿勢の理解と確かな指導力・実践力の向上を図る。

[授業全体の内容の概要]

・保育の様々な場面に即したテーマを選定し、実践に必要な情報収集や教材研究に取り組む中で、学生同士の同僚性を高めながらワークに取り組み、広がり・深まりのある保育の実践につなげていく。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・保育の専門職としての知識や技術を活かした企画および実践演習を通して、学生一人ひとりが「思考力」「判断力」「表現力」を発揮し、実践と協働による達成感を味わう。・福祉保育学科での学習知と実習等で学んだ指導方法や技術及び実践方法の統合を図り、保育者に求められる姿勢への理解と確かな指導力・実践力の向上を図る。

[授業の日程と各界のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1. 授業内容の説明 ・オリエンテーション＜講義・実践＞
2. 手遊び開拓＜講義・作成＞
3. 手遊び発表＜講義・実践＞
4. 集団遊び＜講義・実践＞
5. 実習前介護指導＜講義・演習＞
6. 就職について＜講義＞
7. 新聞紙バック作り＜講義・実践＞
8. 障害について＜講義・グループワーク＞
9. 七夕製作、和紙染＜講義・グループワーク＞
10. 七夕製作＜講義・グループワーク＞
11. 七夕製作、飾りつけ＜実践＞
12. 紙芝居＜講義・グループワーク＞
13. 紙芝居発表＜講義・グループワーク＞
14. 発達の多様性を知る＜講義・ディベート＞
15. まとめ・振り返り＜講義＞

[履修に当たっての留意点]

クラス内のディスカッションの機会を多くあるので、自分の意見を持ち、発表できるようにする。

[使用テキスト・参考文献]

授業に必要なプリントは随時用意します。

[単位認定の方法及び基準]

・授業態度及び課題への取り組み　30%
・提出物　30%
・発表　40%

# 授 業 概 要

| 授業のタイトル(教科名) | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| 保育実践演習 | 演習 | 赤石　花子 |

| 授業の回数 | 時間数(単位数) | 配当学科・学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| 30 | 60(2) | 福祉保育学科・2年・後期 | 必修 |

実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性)

担当教員は、幼保連携型こども園や教育に関係する施設等の様々な実務経験の中で、保育の現場で知っておくと役に立つ基礎知識やスキルを、実践を通して伝える。保育の実践を通して省察を繰り返し、クラスの仲間と意見しあいながら実践経験を積んでいけるよう指導する。

[授業の目的・ねらい]

・福祉保育学科での学習知と実習等で学んだ指導方法や技術及び実践方法の統合を図り、保育者に求められる姿勢の理解と確かな指導力・実践力の向上を図る。

[授業全体の内容の概要]

・保育の様々な場面に即したテーマを選定し、実践に必要な情報収集や教材研究に取り組む中で、学生同士の同僚性を高めながらワークに取り組み、広がり・深まりのある保育の実践につなげていく。

授業修了時の達成課題(到達目標)]

・保育の専門職としての知識や技術を活かした企画および実践演習を通して、学生一人ひとりが「思考力」「判断力」「表現力」を発揮し、実践と協働による達成感を味わう。・福祉保育学科での学習知と実習等で学んだ指導方法や技術及び実践方法の統合を図り、保育者に求められる姿勢への理解と確かな指導力・実践力の向上を図る。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1. 廃材工作①保育とSDGsについて考察する＜講義・グループワーク＞
2. 廃材工作②実践を振り返る＜発表・グループワーク＞
3. 行事への参加を想定する＜講義・グループワーク＞
4. 行事への参加・計画＜講義・グループ演習＞
5. 行事を行う＜実践＞
6. クリスマス会の計画を立てる＜実践＞
7. クリスマス会の計画に基づき準備を行う＜実践＞
8. クリスマス会実践＜発表＞
9. 身近なものを使った伝承遊び＜講義・個人ワーク＞
10. どんな伝承遊びがあるか考える＜個人ワーク＞
11. 伝承遊び発表＜実践＞
12. メッセージカードの製作＜個人ワーク＞
13. メッセージカードの製作＜個人ワーク＞
14. メッセージカード発表＜発表＞
15. メッセージカード製作についての振り返り＜ディスカッション＞

[履修に当たっての留意点]

クラス内のディスカッションの機会を多くあるので、自分の意見を持ち、発表できるようにする。

[使用テキスト・参考文献]

授業に必要なプリントは随時用意します。

[単位認定の方法及び基準]

・授業態度及び課題への取り組み　30%
・提出物　30%
・発表　40%

# 授 業 概 要

| 授業のタイトル（教科名） | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| 障害者スポーツ | 演習 | 星野　邦彦 |

| 授業の回数 | 時間数(単位数) | 配当学科・学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| 15 | 30（1） | 福祉保育学科　2年　後期 | 必修 |

実務経験のある教員による授業科目　（実務経験の概要と授業との関連性）
日本パラスポーツ協会及び群馬県障がい者スポーツ指導者競技会の指導者として、障がい者スポーツ大会の運営等に携わった経験をもとに、実技も含めながら授業を展開していく。

[授業の目的・ねらい]
障がい者が豊かな社会生活を送るために、パラスポーツや文化・芸術活動の果たす役割も大きい。パラスポーツでは、重度障がい者の参加にも考慮しつつ、生活の中で楽しむことができるスポーツ、さらには競技としてのスポーツを積極的に推進すべきであり、パラスポーツ振興の理解と、その援助法を中心に習得することを目的とする。

[授業全体の内容の概要]
障がい者を取り巻く地域社会での福祉施策やスポーツ心理・レクリエーションの意義、障がい区分とスポーツ活動やスポーツ傷害の予防と処置、健康づくりとリハビリテーションの意義、パラスポーツの実施と障がい者のために工夫されたスポーツを学習する。「初級パラスポーツ指導員」資格を取得する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
パラスポーツの意義、特性、支援・援助方法を理解できる。
障がい区分に応じた基本的な支援・援助方法を身につけることができる。
パラスポーツ指導員としての資質を身につけ、生活の中でスポーツに親しめるようになる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
コマ数

1. オリエンテーション　　スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質について説明する。【講義】
2. パラスポーツの意義と理念について説明する。【講義】
3. 全国障害者スポーツ大会の概要について説明する。【講義】
4. 障がいのある人との交流について説明する。【講義】
5. 障がいのある人との交流について説明する。【講義】
6. パラスポーツ推進の取り組みについて説明する。【講義】
7. パラスポーツに関する諸施策について説明する。【講義】
8. 安全管理について説明する。【講義】
9. 各障がいの理解について説明する。【講義】（肢体不自由、視覚障がい）
10. 各障がいの理解について説明する。【講義】（聴覚・音声言語障がい、内部障がい）
11. 各障がいの理解について説明する。【講義】（知的障がい、発達障がい）
12. 各障がいの理解について説明する。【講義】（精神障がい）
13. 各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫について説明する。【実技】（シッティングバレー、フライングディスク）
14. 各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫について説明する。【実技】（ボッチャ、ゴールボール）
15. コミュニケーションスキルの基礎について説明する。【講義】　　まとめ

[履修に当たっての留意点]
日本パラスポーツ協会が認定する資格なので、すべての講義を受講することが必要である。

| [使用テキスト・参考文献] | [単位認定の方法及び基準] |
|---|---|
| （公財）日本パラスポーツ協会　［編］<br>『障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級）』<br>2020 年改訂カリキュラム対応　　ぎょうせい | 出席・授業態度50％、実技・レポート試験50％により総合評価をおこなう。 |

# 授 業 概 要

| 授業のタイトル(教科名) | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| 障害者支援/手話 | 演習 | 山田浩臣・桑原裕子 |

| 授業の回数 | 時間数(単位数) | 配当学科・学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| 8 | 15(1/2) | 福祉保育学科2年 後期 | 必修 |

実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性)

聴覚障がい者の暮らし、歴史、活動、福祉などを、当事者である聴覚障がいを持つ講師と、さまざまな場面で手話通訳経験を積んだ手話通訳士とペアとなり、聴覚障がい者の理解を深める講義と手話実技の指導にあたります。

[授業の目的・ねらい]

1. 手話を学ぶ事を通して、聴覚障がい者と関わりを深め、聴覚障がい者の生活・歴史・福祉など社会における聴覚障がい者の現状を学び、見た目では解りにくい「障がい」を理解し社会的要因について学びます。
2. コミュニケーション手段として、基本的な手話技術を学びます。また、手話を学ぶことでコミュニケーションの必要性や伝えることの大切さを学びます。

[授業全体の内容の概要]

講義と手話実技

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

聴覚障がい者問題への理解、コミュニケーション手段として、手話技術を身につけます。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1. 講義 ガイダンス (手話の授業を受けるに当たっての心構えを知る)
   実技 伝え合ってみましょう (身振りで伝える、あいさつの手話を学ぶ、名前を表してみる)指文字あ～た行
2. 講義 聴覚障害者のコミュニケーション (聴覚障害について、コミュニケーション方法について)
   実技 家族を紹介しましょう (名前、家族などの手話を学ぶ)指文字な～わ行
3. 講義 聴覚障害者の暮らし (DVD視聴)「私の大切な家族」・聴覚障害者の生活
   実技 数について学びましょう(月日) (数字、値段、誕生日の手話を学ぶ) 指文字(濁音・半濁音・促音・拗音)
4. 講義 音のない世界(聴覚障害の基礎知識 (災害、聴こえないこと、困ったこと)
   実技 住所・趣味を紹介しましょう (趣味、出身、交通、行きたい場所などの手話を学ぶ)指文字しりとり
5. 講義 手話の歴史 (手話はどうして誕生したか？)
   実技 食べ物を表しましょう現在、過去、未来(いろんな食べ物の手話を学ぶ)好き・嫌い手話表現・表情
6. 交流会 交流会「ろう者と手話で話してみましょう」 (今まで学んだ手話を活かしてろう者たちと交流)
7. 講義 手話は言語 (手話言語条例について・県民の役割は？)
   実技 聞こえない保護者と会話をしましょう (保育園など、コミュニケーションが出来るように学ぶ)
8. 試験&振り返り

[履修に当たっての留意点]

・ろう講師は視覚から情報を得るため、受講生は手や顔が見やすいように服装(そでの長さ)、髪型に注意する。
・実技は、ろう講師と視線を合わせて会話をする。
・各自復習(プリント)をする。

[使用テキスト・参考文献]

聴さんと学ぼう！:一般社団法人全日本ろうあ連盟
手話を学ぼう 手話で話そう:全国手話研修センター
私たちの手話 学習辞典Ⅰ:一般社団法人全日本ろうあ連盟
聴覚・言語障害者とコミュニケーション:中央法規出版

[単位認定の方法及び基準]

講義での試験(15%)
手話での読み取り (25%)
手話での表現(スピーチ)1分間 (50%)
レポート(10%)

# 授 業 概 要

| 授業のタイトル(教科名) | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|---|---|
| 障害者支援/点字 | 演習 | 岡田　記代 |

| 授業の回数 | 時間数(単位数) | 配当学科・学年・時期 | 必修・選択 |
|---|---|---|---|
| 8 | 15(1/2) | 福祉保育学科2年 後期 | 必修 |

実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）

[授業の目的・ねらい]

1．点字の概要・歴史を学び視覚障害者にとって点字の持つ役割を理解する。
2．実際に点字の読み書きを行うことで点字技術を習得する。
3．視覚障害者への理解を深め思いやりのある気持ちを育てる。

[授業全体の内容の概要]

点字の読み書きを主に学んでいくが単に技術習得にとどまらず、実際に視覚障害者に対してどんな支援が必要か、自分はそれに対して何ができるかなど具体的に考える力をつけ、広く視覚障害者の現況や福祉制度についても理解を深める。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

1. 視覚障害者の現状をまなび、その福祉制度について理解する。
2. 点字の歴史と点字の発見が視覚障害者に果たした役割を学ぶことで、視覚障害者の歴史を理解できる。
3.点字の読み書きに習熟する(簡単な文章の読み書きができる)。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1. 視覚障碍者の状況・福祉制度、点字の歴史について学ぶ【講義】
2. 点字の概要について解説し、実際の点字に触れる【講義・実習】
3. 点字の表記について学ぶ①（五十音・濁音・拗音）【講義・実習】
4. 点字の表記について学ぶ②(かなづかい・分かち書き)【講義・実習】
5. 書き方の実際①（ 点字文法にそった短文の書き方)【講義・実習】
6. 書き方の実際②(長文・手紙の書き方)【講義・実習】
7. 書き方の実際③(課題点訳に取り組む )【実習】
8. 課題点訳の完成 まとめ確認 【まとめと解説】

[履修に当たっての留意点]

点字の読み書きを学ぶことを通じて、現実に点字を使って社会生活を送っている視覚障害者について理解を深める。

・ 授業中の課題はその都度仕上げて必ず提出する。
・ 使用テキストの参考資料や、補足資料参考文献などに目を通して視覚障碍者への理解を深める。

| [使用テキスト・参考文献] | [単位認定の方法及び基準] |
|---|---|
| 特定非営利活動法人 全国視覚障害者情報提供施設協会 編集・発行(2019年) 『初めての点訳 第3版』 大活字 | 毎回の課題等の提出物の評価<br>課題の長文の点訳の評価 ・ 確認の試験<br>提出物10% 課題点訳50% 試験40% |